

口腔医療学演習

Seminar of Oral Interdisciplinary Medicine

キーワード

- ① 歯周治療
- ② う蝕治療
- ③ 歯科補綴治療
- ④ 口腔インプラント治療
- ⑤ マイクロエンド
- ⑥ 小児歯科学
- ⑦ 歯科矯正学

授業概要

近年、歯科治療において多分野によるチームアプローチ、いわゆるインターディシプリナリーな治療体系の重要性が高まっている。本演習では、顎口腔機能が崩壊した症例の診断と治療法について問題設定し演習を行う。これらの演習を通して、小児から高齢者のライフコースに基づいた総合的な視点による一口腔単位での診断と治療法を討論し、口腔医療学における俯瞰的な判断を行う素養を身につけ、各大学院生の研究活動における多角的な検証を行うことを目的として開講する。

授業科目の学修目標

口腔医療学は、小児から高齢者のライフコースに基づいた総合的な視点による一口腔単位での診断と治療法を包括した学問であり、各専門分野を含めた一貫通貫した演習プログラムを通じて必要な知識・態度・技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

- ① う蝕治療学について問題設定した演習を行う。 3コマ 向井義晴
- ② 歯内療法学について問題設定した演習を行う。 3コマ 石井信之
- ③ 歯周病学について問題設定した演習を行う。 3コマ 三辺正人
- ④ 補綴治療学について問題設定した演習を行う。 2コマ 木本克彦
- ⑤ 顎咬合機能学について問題設定した演習を行う。 3コマ 玉置勝司
- ⑥ 口腔インプラント治療学について問題設定した演習を行う。 2コマ 木本克彦
- ⑦ 再生療法学について問題設定した演習を行う。 3コマ 三辺正人
- ⑧ 小児歯科学について問題設定した演習を行う。 3コマ 木本茂成
- ⑨ 矯正治療学について問題設定した演習を行う。 3コマ 向井義晴
- ⑩ 先端材料学について問題設定した演習を行う。 3コマ 二瓶智太郎
- ⑪ 総合演習を行う。 2コマ 向井義晴

教科書および参考書

配布プリント

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

演習の前には、演習内容を指導教員に確認をし、理論を熟知して演習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① う蝕治療学の理論を理解し説明（実践）することができる。
- ② 歯内療法学の理論を理解し説明（実践）することができる。
- ③ 歯周病学の理論を理解し説明（実践）することができる。
- ④ 補綴治療学の理論を理解し説明（実践）することができる。
- ⑤ 顎咬合機能学の理論を理解し説明（実践）することができる。
- ⑥ 口腔インプラント治療学の理論を理解し説明（実践）することができる。
- ⑦ 再生療法学の理論を理解し説明（実践）することができる。
- ⑧ 小児歯科学の理論を理解し説明（実践）することができる。
- ⑨ 矯正治療学の理論を理解し説明（実践）することができる。
- ⑩ 先端材料学の理論を理解し説明（実践）することができる。
- ⑪ 分野融合的に理解し俯瞰的に思考できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポート フォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	30%	60%	0%	10%	0%

評価の要点

- ・授業項目ごとに理解度を確認するためレポートと口頭試問を行う。
- ・成果発表は、本演習で身についたことについての発表・質疑応答の内容を総合的に評価する。
ディスカッション・ディベート・課題発表：各20%=60%

理想的な達成レベルの目安

口腔医療学演習の理想的な達成レベルは80%以上とする。